



# 沖電工



# JAPAN AIRLINES

(共同リリース)

2026年1月21日

株式会社沖電工

日本航空株式会社

## 沖電工とJAL、那覇空港にて燃料電池フォークリフトの実証事業を開始

～水素エネルギーの活用で、さらなるエコエアポート化の実現へ～

株式会社沖電工(本社:沖縄県那覇市、代表取締役社長:島袋 清人、以下「沖電工」)と日本航空株式会社(本社:東京都品川区、代表取締役社長:鳥取 三津子、以下「JAL」)は、CO<sub>2</sub>排出量削減を目指す取り組みの一環として、2026年1月20日より那覇空港構内において、水素を燃料とする燃料電池フォークリフト(以下「FCFL:Fuel Cell Fork Lift」)および水素充填システムを試験的に導入し実証事業を開始します。



2026年1月20日に行われたお披露目イベントの様子  
(左から、JAL 沖縄空港支店長 大竹 勇次郎、沖電工 代表取締役社長 島袋 清人)



現場の様子(那覇空港貨物ターミナル)

本実証で導入するFCFLおよび水素充填システムは、沖電工が内閣府沖縄総合事務局の補助事業である「令和6年度沖縄型クリーンエネルギー導入促進実証事業費補助金」を活用して導入したものです。約1か月間の実証期間中、沖電工は那覇空港への水素供給体制の検証を行い、JALは貨物エリアにて実際の貨物積み下ろし作業での運用を通じて実用性を確認します。

FCFLは、稼働時にCO<sub>2</sub>などの環境負荷物質を排出しないクリーンな作業環境を実現でき、さらに約3分の水素充填で約8時間の連続稼働が可能な車両です。排出されるのは水のみで、環境に優しい車両として期待されています。

沖縄電工は沖縄の脱炭素社会の実現に向け、沖縄の玄関口である那覇空港の脱炭素化を目標に掲げ、県内企業とも連携して課題解決に取り組み、観光立県でもある沖縄の脱炭素社会の起点となる展開を推進します。JALも2050年までにCO<sub>2</sub>排出量実質ゼロの実現を目標に掲げており、これからも県内企業と協力し、空港および航空業界全体の脱炭素化に貢献してまいります。

**【実証概要】**

- 期間 : 2026年1月20日(火)~2026年2月13日(金) (予定)
- 場所 : 那覇空港貨物ターミナル 日本航空貨物エリア
- 車両 : 豊田自動織機社製FCFL 1台

以上

**【問い合わせ先】**

- 株式会社沖縄電工 経営企画部 企画課 098-835-9773(平日のみ、09:00-17:00)
- 日本航空株式会社 沖縄空港支店 098-840-1501(平日のみ、09:00-17:00)